

旧小田切家住宅パンフレット (英語表記)

長野県立大学 グローバルマネジメント学科

学生：伊藤友那、成澤藍(A班)／竹中小晴、本間心音(B班)

教員：トレーン・デヴォア、坂淳一

[旧小田切家住宅パンフレット-All English version-7 Feb.pdf](#)

目次

1. 活動内容紹介
2. 旧小田切家について
3. 現地訪問の様子
4. 翻訳作業の大変だった点
5. 気づき、学んだこと

活動内容紹介

◆ 活動内容

須坂市の文化財「旧小田切家住宅」の案内パンフレットを英語訳・作成するプロジェクト

[旧小田切家案内（表紙）.pdf](#) [旧小田切家案内（本文）.pdf](#)

長野県立大学グローバルマネジメント学部2年生3人、3年生1人の学生4名と、英語担当教員2名が参加。

日本語版の前半をA班の二人が、後半をB班の二人が英訳。

◆ 背景

コロナ規制の緩和により須坂市を訪れる外国人観光客が増加。彼らに文化財の魅力や、須坂市の生糸産業を通じた海外との関わりを伝えるため。

活動内容紹介

◆プロジェクトの流れ

2024年7月 スタートアップ会議

2024年8月 現地訪問・資料収集

夏休み～秋 日本語パンフレットを基に個別で英訳作業

2024年12月 英語担当教員によるネイティブチェック

2025年 1月 完成

旧小田切家とは



- 大笹街道と谷街道が交差する街の中心部に居を構え、麴、酒造、酒、蚕糸、呉服商などを営む豪商。
- 1870年に起きた須坂騒動での”打ちこわし”による被害を受け、現在の建物は明治時代に小田切辰之助が再建したもの。
- 2013年に「須坂市指定有形文化財」に指定され、須坂市の文化施設となったことをきっかけに2014年に改修工事が行われ、2016年に須坂市旧小田切家住宅として開館。

小田切辰之助

(おだぎり たつのすけ)

- 小田切辰之助は須坂の繁栄授業の発達に大きく貢献した人物
- 蚕種の品質向上のため蚕種組合を作り1873年に養蚕、蚕種の指導・取締をする長野県の蚕種大総代
- 製糸業のみならず白磁製の焼きもの「須坂焼」の生産や銀行の設立、水道敷設に協力するなど町の発展にも寄与。

小田切辰之助

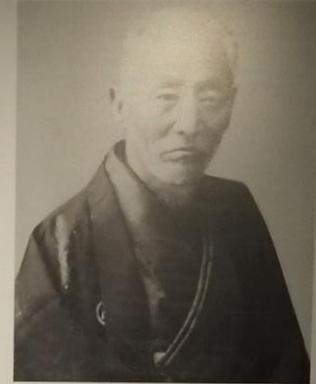
おたぎり たつのすけ
1839 - 1904

小 田切辰之助は天保10年(1839)、
沖兵衛の長男として生まれました。
生家であるここ小田切家は小田切
の宗家おおこうじやであるいは西靴屋にしこうじやと呼ば
れ、靴・油・糸・呉服商などを営んでいま
した。

江戸時代末期、横浜が開港すると生糸
や蚕種さんしゆの貿易が盛んになりました。ちよ
うど、ヨーロッパで蚕の伝染病が流行し
蚕種が不足していたこともあって、蚕種
の輸出は急増し、その取引価格はそれま
での数倍にもなったため争って横浜へ
輸送されました。

しかし、このことで粗悪な蚕種取引
が横行して海外の信用を失うこととな
り、明治5年(1872)、政府は蚕種取締の
ため品質をチェックする蚕種大総代を設
けます。辰之助は、翌6年2月に須坂地
域を含む川東組の大総代に選ばれ、指
導・取締りをする立場から良質な蚕種
の生産に尽力しました。

また、まだ洋式器械製糸が長野県に
導入されて間もない明治8年に弟の武
兵衛とともに水車を動力とする器械製



糸を始め、日本初の製糸結社「東行社」
の創立にも中心になって働きました。
その後東行社は大きく発展しましたが、
経営上の意見の違いから兄弟は東行
社を抜け、明治17年、新たな結社作
りを目指す最中で病没した武兵衛の遺
志を継いで「俊明社」を創立し、東行社
とともに須坂の製糸業を発展させてい
きました。

これらの功績により明治24年7月、
辰之助は緑綬褒章を受章しました。

製糸業には多くの資金がかかるため、
明治28年には高井銀行を創立して初代
の頭取になりました。損得抜きで多く
の人を助けたためその人柄が慕われ、い
ろいろな名誉職に推され、町民の福利
の増進に尽しました。

現地訪問の様子



小田切家住宅の館内を案内・解説して
いただいている様子



須坂産の生糸が横浜を通じてアメリカに
輸出されていたことを初めて知りました



- ・タラヨウの葉に文字を書いている様子
- ・情報のやりとりに使われていたことから「葉書」の語源になったと言われている



- ・小田切邸にあった昔の固定電話
- ・歴史のある貴重な物を見ることができた

現地訪問の様子

- 土蔵にある階段。
- 普通の蔵に比べて階段幅が広く作られている。
- 大きな繭(まゆ)貯蔵袋を出し入れできるようにするため。
- 蔵の階段でこれだけ幅を大きく作っているのは珍しい。





- 小田切家の人々が生活の場にしていたお勝手・台所
- 2階にある女中部屋
- 6畳ほどのスペースで、2~3人の女中さんたちが使っていた
- 取り外しできるはしごで上がっていたが、女中さんたちが上った後ははしごを片付ける
- 夜間のお手洗い事情は未だ明らかではないそう

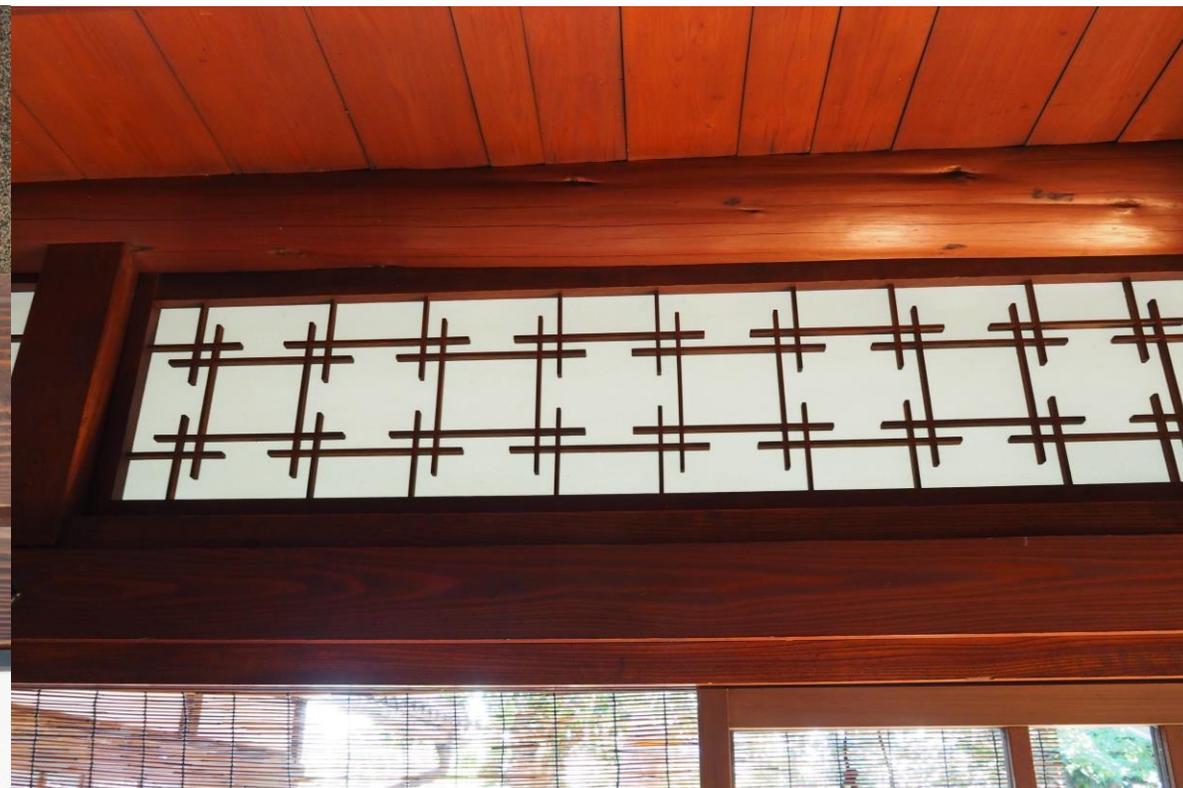


釘隠し(柏の葉)

釘を隠すためのもの。

安土桃山時代から飾りの役割。

菱、松の木など他にもたくさんの形があり、宝探しをしているようで楽しかった。



組子欄間

釘を使わず木材を組み合わせるだけで幾何学模様を組み付ける木工技術。

風通しを良くし、湿気対策にもなる。

帝繫ぎ(亀甲継ぎ)や、六角麻之葉(禰豆子の服の模様)など、様々なデザインがある。

英訳で大変だったこと（A班）

七宝(しっぽう)の翻訳

柱と梁を固定する釘を隠す「釘隠し」装飾の一つ

- ・そもそも自分が釘隠しの存在を知らず、使用用途やデザインの意味の理解から始まった。
- ・「七宝」に対応する明確な英語の単語がなく、単に訳すのではなく、文章で解説する必要があった。

This crest of interconnected circles represents the connections between all things, as well as the bonds between people and people.



苦勞した点

- 日本語でも聞いたことがないような言葉が多かったため、言葉の意味を調べることからスタートした点
 - 緑綬褒章や東行社など聞き馴染みのない言葉が多かった
- 外国にはない日本独自の文化を伝える際、英語表現をどのようにするか悩んだ点
 - 奥座敷やお納戸など部屋の役割を説明する部分が特に大変

英訳を作る上で大変だった事 (B班)

- 日本語の意味そのものが分からなくて、それを調べて、理解してから翻訳することが難しかった。

例えば、、、

- "鬼門なし"の日本語の言葉遊び
- 男梁、女梁



- 日本の歴史と関連してくる
⇒日本の歴史的背景を説明知る必要がある。
- 実際の写真だけでは伝わらない
細かい説明を英語でする
⇒一部分だけ陶板が敷かれている



気づき、 学んだこと (A班)

- 地元須坂市の生糸産業での海外とのつながり
→ 海外の人にとっても須坂市を身近に感じてもらえるのではないか
- 原文の意味を曲げず、正しく翻訳することの難しさ
→ 訳す語句の意味、翻訳先の言語を理解することが重要である
- 英訳作業を通して英語に対する学習意欲の向上
→ 英訳を通して自然な表現や単語について学ぶことができた
- 新たな魅力の発見
→ 工夫した家の作りや細かい装飾などが特に印象に残った

気づいたこと、学んだこと(B班)

- 日本語の面白さや、日本文化の美しさに改めて気付いた。
- 施設見学して、施設内のたくさんの気遣いやユーモア、工夫などを発見した。
- 英語力不足を痛感、、 英語学習のモチベーション向上
- 旧小田切家は胸を張って紹介できる施設！



ご清聴ありがとうございました。